

日清戦争

1 / 1

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

今日の問い

日清戦争はなぜ起こり、東アジアの国々の関係はどう変わったのだろうか。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 朝鮮をめぐる対立

甲午農民戦争

甲午農民戦争

1894年、朝鮮南部で起こった農民の反乱(東学党の乱とも)。

東学

朝鮮で広まった民間の宗教。甲午農民戦争の中心となった。

日清戦争

1894年に始まった、日本と清の戦争。

日朝修好条規のあと、朝鮮では日本と清のどちらが強い影響力をもつかをめぐる対立が続いていた。1894年、朝鮮南部で**東学**を信じる人々を中心に、政治の改革と外国勢力の排除を求める**甲午農民戦争**(東学党の乱とも)が起こった。朝鮮政府が清に出兵を求めると、日本も対抗して軍隊を送った。

反乱がおさまったあとも両国の軍隊は引かず、1894年、**日清戦争**が始まった。開戦の直前、日本はイギリスとの条約改正に成功していた。国内では議会も戦争の費用を認め、多くの国民が戦争を支持した。近代的な軍備を整えていた日本は優位に戦いを進め、朝鮮半島や遼東半島などで清の軍を破った。

2 下関条約と三国干渉

講和と台湾

下関条約

1895年に結ばれた、日清戦争の講和条約。

三国干渉

ロシア・フランス・ドイツが遼東半島の返還を求めたこと。

台湾総督府

日本が台湾を植民地として統治するために置いた役所。

1895年、日本と清は**下関条約**を結んだ。清は朝鮮の独立を認め、日本に**遼東半島**・**台湾**・台湾の西の**澎湖諸島**をゆずり、賠償金2億両(当時の日本円で約3億1000万円)を支払うことになった。**賠償金**の多くは軍備の拡張にあてられ、一部は八幡製鉄所の建設にも使われた。

しかし**ロシア**はフランス・ドイツとともに、遼東半島を清に返すよう日本に求めた(**三国干渉**)。対抗する力のない日本はこれを受け入れたが、のちにロシアは、その遼東半島の旅順・大連を清から借り受けた。国内ではロシアへの反感が強まり、「**臥薪嘗胆**」(将来のために苦しさにたえること)を合言葉に、政府は軍備の増強を進めた。

日本は、最初の植民地となった台湾に**台湾総督府**を置いた。日本の支配に反対する台湾の人々の抵抗を軍隊でおさえ、統治を進めた。

甲午農民戦争
1894年日清戦争
1894年下関条約
1895年三国干渉
遼東半島を返す

問いへの答え

朝鮮への影響力をめぐる日本と清が対立し、1894年の甲午農民戦争への出兵をきっかけに日清戦争が始まった。勝った日本は下関条約で清に朝鮮の独立を認めさせ、台湾などと賠償金を得たが、三国干渉で遼東半島は返した。日本は台湾を植民地とし、ロシアとの対立を深めていった。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →